



行政視察報告書

*期 日

平成30年10月24日(水)～26日(金)

*調査地

・滋賀県守山市

「すこやかまちづくり行動戦略」について

・岐阜県岐阜市

「みんなの森 ぎふメディアコスモス」について

茨城県古河市議会

文教厚生常任委員会

平成30年12月14日 報告

委員長	落合康之
副委員長	高橋秀彰
委員	阿久津佳子
委員	稲葉貴大
委員	佐藤稔
委員	鈴木隆
委員	長浜音一
委員	渡邊澄夫

【守山市の概要】

守山市は、近畿地方北東部、滋賀県の南西部に位置する市である。縄文時代から弥生時代の古代遺跡が多くあり、特に弥生期の巨大集落跡は、クニの初めを知る貴重な遺跡として注目されている。壬申の乱以降、東西交通の要衝として、野洲川が度々戦場となった。

室町時代には一向宗門徒の近江国における拠点ともなり、また足利義昭の矢島御所（守山市矢島町）も設けられた。

江戸時代は、中山道を代表する宿場町の一つとして栄え、近年京都・大阪のベッドタウンとして高い人口増加率を保持している。

鈴鹿山系から流れ出る野洲川が琵琶湖に注ぐ扇状地の南側に位置する。

野洲川の流れに沿い川上から川下にかけて、緩やかな斜面を形成するが標高差は 20m 程度でほぼ平坦地、かつては都賀山などの地名があるが、現在は山や丘と言った地形は認識されない。

古来より益須の醴泉が紹介される通り、鈴鹿山系からの湧水と豊かな野洲川の流れにより、水に恵まれた土地であった。

ただし、他の琵琶湖沿岸部同様に、過去においては度々起きた川の氾濫や琵琶湖水位の上昇で被害を被った。

人口 82,936 人 面積 55.74 km² （H30.6.30 現在）

調査事項

「すこやかまちづくり行動戦略」について

1. すこやかまちづくり行動戦略の策定に至る経緯について
2. すこやかまちづくり行動戦略の概要・特色について
3. 具体的な取り組みについて
4. 事業の実績・効果について
5. 今後の展開及び課題等について

【調査事項】

「すこやかまちづくり行動戦略」について

1. すこやかまちづくり行動戦略の策定に至る経緯について

「住みやすさ日本一が実感できるまち守山」

『すこやかまちづくり行動プラン』を平成22年12月に策定した。

その契機は、平成21年度の保険者医療・介護等総合診断事業において多くの課題があったが、一方で、①保険税の連続引上げ②介護保険料が県内で一番高額となっていた。そのため介護や医療制度の安定運用の必要性が高まり、プラン策定に至った。

行動プランのねらい

- ・市民にとっては健康や生きがいを持った豊かな人生を送ることが可能に。さらに税や保険料の負担増を最小限に抑える子が可能に。
- ・まちにとっては介護や医療などの制度を安定的に運営することが可能に。さらにまちづくりのために再投資。

行動プランの目標

- ・守山市が住みやすいまちだと思える割合を現状の72%から80%にする。
- ・健康寿命：男2位、女17位を、男女とも県内で1位にする。

※ 健康寿命とは日常的に介護を必要としないで自立した生活ができる生存期間のこと。

行動プランの主要事業

- ・すこやかチャレンジ事業（目標を決めてチャレンジカードに記入、ポイント交換）
- ・いきがい活動ポイント事業（シニアボランティア制度と同じ） など

行動プランの関連事業

- ・検診の受診率向上運動の展開
- ・健康づくり環境の整備
- ・保健活動の強化（すこやか訪問事業）
- ・地域包括ケアシステムの推進

2. すこやかまちづくり行動戦略の概要・特色について

すこやかまちづくり行動戦略
～住みやすさ日本一が実感できるまち守山をめざして～

健康で生きがいを持った市民を増やし、住み慣れた地域で人とのつながりをもとに、健康で住みやすき日本一を実感できるまちを目指すための戦略プランである。（期間は平成28年度～32年度）

「プラン」から『戦略』へ

市民の健康づくり、生きがいづくりを市がしっかりと後押し・支援することで、行動戦略のねらいにおける「良い環境」に強い推進力をつける。

1. 現行プランのねらいの継承と健康概念の捉え直し
2. 健康を意識し行動する人の増加
3. 市民の主体的で継続した健康づくりの推進
4. 健康づくりの気運を高め、市民の生きがいであふれる守山の創造

戦略の3本柱

【学んで知る健康】・【つくる健康】・【みんなで広げる健康】

平成30年度の体制

- ・庁内推進会議の設置
戦略等に係る具体的な施策の検討と実施
戦略等の進捗状況の確認および評価、見直し
- ・市民推進会議の設置
戦略等に基づく施策等の進捗状況の把握、指標・目標の見直し及び評価

3. 具体的な取り組みについて

戦略の3本柱

【学んで知る健康】・【つくる健康】・【みんなで広げる健康】

【学んで知る健康】（健康づくりに対する意識の向上）

健康に対する正しい知識を学び、自分の状態を知ることで健康づくりに取り組む意識の向上をめざす。

- ・市立図書館に「健康医療情報コーナー」を設置
- ・新図書館（建設中）
 - 図書ゾーン（本との出会いをサポート）
 - 活動ゾーン（市民の文化活動をサポート）
 - 木もれび広場（カフェ、展示コーナー、企業・就労支援）
- ・コンビニ de 検診、呼吸器疾患検診の導入など検診の充実
- ・健康相談、出前講座など、気軽に相談できる体制づくり
- ・健康測定器を利用した健康チェックの機会の提供
もりやま健康フェスティバル～「わ」でひろがるいきいき健康づくり～
- ・学校への保健師等派遣による学童期における健康教育の実施

【つくる健康】（気軽に実践できる健康づくりの推進）

市民が気軽に実践でき、長く健康を維持できるように、個人やみんなで健康づくりに励むなど、多様な方法で取り組める環境づくりをめざす。

- ・健康遊具の設置など健康増進に結びつく公園の整備
- ・宿泊型健康セミナー、男性料理教室などの実施
- ・W（ウォーキング）、R（ランニング）、C（サイクリング）による健康づくりの推進

みんなで健康 100 日チャレンジ！（H29.10.1～H30.1.8）

「バーチャル中山道の旅」と「体重測定」で健康づくりを実践

895 人参加

みんなで健康 200 日チャレンジ！（H30.7.1～H31.1.16）

取組期間の延長と賞品の見直しを行い実施中

- ・「子どもの体力向上プロジェクト」、小学校「すこやかタイム（10 分間運動）」の推進
- ・「守山百歳体操」「UDスポーツ」などによる介護予防等の取組の推進

【みんなで広げる健康】（地域における生きがい・やりがいのある生活）

市民の健康づくり・生きがいづくりを支えるため、だれもが気軽に実践でき、やりがいを実感できる環境を整備します。市民が社会参加をしながら相互に支え合い、地域でいつまでも暮らせるよう推進する。

- ・環境施設の整備に併せた健康づくりの「場」の創出
- ・地域の多様な主体による高齢者が身近に集える通いの「場」づくりの推進
- ・趣味や交流が広がる多世代が集う居場所づくりの推進
- ・いきがい活動ポイント事業の推進
- ・健康づくり活動表彰の創設

4. 事業の実績・効果について

平成 23 年度～27 年度『すこやかまちづくり行動プラン』の結果
目標の達成度は、

- ・守山市が住みやすいまちだと思う割合：72% → 80%

結果：74.4%

- ・健康寿命：男 2 位、女 17 位 → 男女とも県内で 1 位

結果：男 12 位、女 16 位

◎結果から見た方策により、「健康」の捉え直しを図る。

「健康」…単に病気でないことと捉えず、身体・心・地域においても
良好な状態であることと捉え直す。

平成28年度～32年度『すこやかまちづくり行動戦略』を策定し、現在推進中である。

【滋賀県守山市での視察研修】

研修①



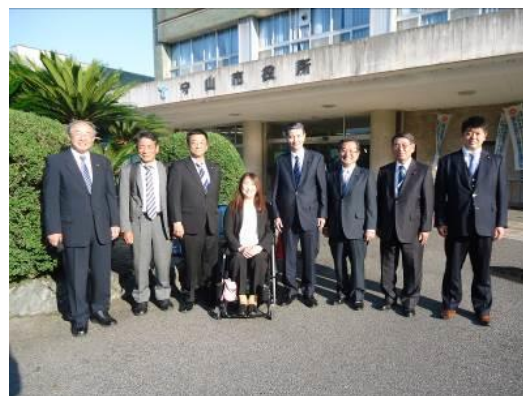
研修②



守山市議会議場にて



守山市役所正面入口にて



【岐阜市の概要】

岐阜市は、岐阜県の中南部に位置する中核市で、同県の県庁所在地である。

戦国時代には、金華山の麓の旧岐阜町が、斎藤道三や織田信長が城主として支配した城下町として栄え、江戸時代には幕府の直轄地のちに尾張藩領となり岐阜奉行所が置かれ、岐阜四十四町からなる商工業の中心地として栄え、南部の旧加納町が中山道加納宿の宿場町、加納藩の城下町として栄えた。

岐阜県の南部に位置し、濃尾平野の北端に当たる。北部には山林を有し、南部には市街地が広がっている。

また市内を横切るように、北東から南西にかけて長良川が流れており、市の大部分は長良川と支流の扇状地と自然堤防地帯にあたる。

この長良川は日本三大清流の一つと言われ、中流域が 1985 年（昭和 60 年）に「名水百選」に、また 1998 年（平成 10 年）に「日本の水浴場 55 選」に、2001 年（平成 13 年）に「日本の水浴場 88 選」に選定されている。

一方、扇状地の長良川は典型的な天井川で、市の中心部より川の水面の方が常に高く、大雨の際には洪水の危険が伴う。

人口 410,252 人 （平成 30 年 9 月 1 日現在）

面積 203.60 km² （平成 26 年 10 月 1 日現在）

調査事項

「みんなの森 ぎふメディアコスモス」について

1. 市立中央図書館を中心とした複合施設建設に至った経緯について
2. 事業の概要・特色について
3. 建設時及び現在の財政措置について
4. 施設の利用状況について
5. 複合施設建設による利便性の向上および効果について
6. 現状および今後の課題について

【調査事項】

「みんなの森 ぎふメディアコスモス」について

1. 市立中央図書館を中心とした複合施設建設に至った経緯について

市の中心市街地に位置する「岐阜大学医学部等跡地」において事業展開している「つかさのまち夢プロジェクト」の第1期として、「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー棟からなる複合施設である。（第2期は行政施設・市庁舎で、現在建設中である。第3期は（仮称）市民文化ホールを想定しているが、白紙の状態である。）

建築界のノーベル賞と言われる「ブリッカー建築賞」を受賞するなど、世界的にも著名な建築家である伊藤豊雄氏とともに建築を進めたものであり、平成23年度に基本・実施設計、平成25年度に工事着手（戸田JV）、平成26年度に建物が完成し、平成27年7月18日に開館、平成29年度には立体駐車場が完成した。

敷地面積	14,725.39 m ²
建築面積	7,530.57 m ² （本体棟＋附属棟）
延床面積	15,444.23 m ² （本体棟＋附属棟）
主な用途	中央図書館、市民活動交流センター（多文化交流プラザを含む） 展示ギャラリー、ホール
構造	1階・M2階 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造） 2階 鉄骨造、木造（梁）
階数	地上2階 地下1階 建物高さ 16.09m
設計期間	2011年2月～2012年3月
工事期間	2013年7月～2015年2月
設計	株式会社 伊東豊雄建築設計事務所
施工	建築主体工事 戸田・大日本・市川・ 雛屋 特定建設工事共同企業体 電気設備工事 内藤・山一 特定建設工事共同企業体 空調設備工事 朝日・ダイワ 特定建設工事共同企業体 衛生設備工事 安田・濃尾 特定建設工事共同企業体 太陽光発電設備工事 山一電気 株式会社

2. 事業の概要・特色について

みんなの森ぎふメディアコスモスは、「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる複合施設である。

「市立中央図書館」は、「木造格子屋根（岐阜の山々の稜線をイメージ）」という特徴を持ち、最大所蔵可能数 90 万冊、座席数 910 席を誇る。また「市民活動交流センター」は、活動・発表の場となるスタジオ等を備え、岐阜市の市民活動を積極的に支援し、「みんなのホール」・「みんなのギャラリー」においては、展示や発表会、講演会やセレモニーなど多様な使い方ができる。このほか「多文化交流プラザ」という国際交流の場も開設している。

中央図書館では、天井からそれぞれのエリアを包み込む「グローブ」が吊り下げられ、その中は明るく快適な空間となっている。書棚はグローブを中心に渦を巻くように配置されている。

市民活動交流センターでは何でも相談できるカウンターはもちろん、大小 4 種類のスタジオを多種多様に使用することができ、最大 100 人収容可能な「かんがえるスタジオ」や一面鏡張りの「おどるスタジオ」などを備えている。

特色として、館長である吉成信夫氏は公募により就任しており、「子どもの声は未来の声」という事業理念を掲げ、館内で小さい子どもが少しぎわついていたとしても、親と一緒に微笑ましく見守るというスタンスをとっている。苦情はほとんどないとのこと。子どもたちが好きそうな「隠れ家」も、書棚の間にいくつか設置されるなど、図書館という常識を覆されそうになる。しかし、公共の場所でもあるため、親から子にマナーを教えてほしいとも伝えている。

学校との連携を図るために学校連携室をつくり、学校に「わんこカート」という台車を使って図書を配布し読書の推進を図っている。司書の派遣や「子ども司書」の養成、「小さな司書のラジオ局」なども実施している。館長は子どもたちと触れ合う機会が多いため、普段街中で会っても「館長！館長！」と呼ばれるようで、うれしそうな笑顔を見せていた。

また、館内に「ヤングアダルト（YA）コーナー」という場所を設置したところ、多くの中高生が来館するようになった。その中にはいじめられている子もいるようで、そんな子どもたちのための居場所（サードプレイス）となるよう考えている。コンビニの前に座り込むのではなく、ここに来てくれればいい、みんなと混ざり合える場所として、社会や最低限のマナーを教える社会教育の場だと考えている。

なお、司書と一緒に考えた「心の叫びを聴け・交流掲示板」は、真面目な意見や悩み以外にもすべて答えることが人気となり、新聞にも取り上げられた。

3. 建設時及び現在の財政措置について

事業費内訳

土地取得費	約29.5億円
設計費	約3.5億円
建設費	約77.0億円
(内訳)	(建築費約60億、工事監理約1億、広場約5億、 立体駐車場約10億、暫定値整備約1億)

図書購入費等 約15.0億円

合計 約125.0億円

財源内訳

国庫補助金 約39億円
(社会資本整備総合交付金)

岐阜大学医学部跡地整備基金 約12億円

図書館整備基金 約14億円

合併特例債 約56億円

一般財源 約4億円

合計 約125億円

4. 施設の利用状況について

- ・来館者数 平成29年度実績 年間約130万人
(平日平均約3,000人、休日平均約5,000人)
旧図書館(年間約15万人)と比較すると、8倍強。
平成29年11月には、延べ300万人を突破。
平成30年3月31日では、3,430,295人
- ・図書館新規登録者数(開館後1年) 約33倍
(H25:929人→30,372人)
- ・貸出利用者の年齢層の変化(40歳以下の割合)
H25:約30% → H29:54%
- ・施設稼働率 平成29年度実績
ホール 80%
ギャラリー 92%
スタジオ4室全体 99%

6. 現状および今後の課題について

市民に寄り添った、身近な【滞在型図書館】（方針）

- ここにいることが気持ちいい
- ここにずっと居たくなる
- 何度でも来たくなる

楽しい図書館【岐阜市立中央図書館OPEN】 2015. 7. 18

次世代型図書館 6つの柱

1. 企画イベントの実施
2. 子供の育成／サードプレイス
3. 郷土の魅力
4. ビジネス支援
5. 本がつなぐひと・まち
6. 図書館ベース事業

市民との協創・協同（今年から）

- ・ライブラリークラブの育成 …（若い人へ）
- ・図書館ボランティアの育成 …（修理など）
- ・まちライブラリアンの育成 …（空き店舗で図書館を）

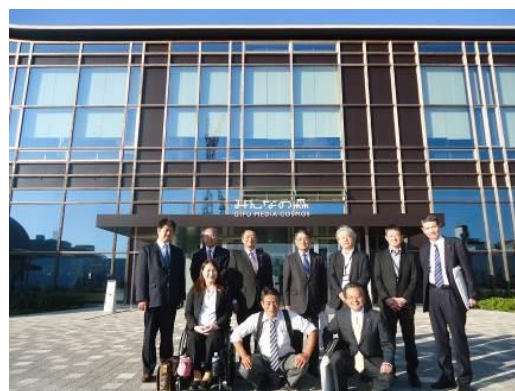
【岐阜県岐阜市の視察研修】

研修



図書館内部①

みんなの森ぎふメディアコスモス正面



図書館内部②



【視察後記】

当委員会は、守山市において「すこやかまちづくり行動戦略」、岐阜市において「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を研究テーマとし、理解を深めるため行政視察を行った。

守山市の「すこやかまちづくり行動戦略」の推進については、目標が明確であり、「健康で、住みやすさ日本一を実感できる守山を目指して」取り組む姿が印象的だった。

古河市と同様に、守山市でも介護や医療制度の安定運営の必要性から当該戦略を打ち立てたとのことで、特筆すべきは健診受診率向上運動の展開であり、特定健診の無料化に踏み切ったことで、受診率は38%~39%と古河市を上回り、受診率を3.7%改善させ、その結果医療費全体に占める生活習慣病の割合を40.4%から33.2%に7.2%も減少させることに成功していることである。生活習慣病予防ができれば、将来の医療費負担も軽減できる。古河市も大英断できるよう、委員会からの提言とさせていただく。

次に岐阜市の取り組みとして、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」という複合施設を視察した。ここは「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、他文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等で構成されている。

外観等もだが、何より目を見張るのは来館者数で、平日平均約3,000人、休日平均約5,000人、年間約130万人に上り、旧図書館が年間約15万人だったのに対し8倍強の数字となっていることである。図書館の新規登録者数も約33倍、貸出利用者の年齢層の変化においても40歳以下の割合が平成25年度約30%だったのに対し、平成29年度は54%と大幅に増えている。施設の稼働率も、ホール80%、ギャラリー92%、スタジオ99%と驚異的な数字をたたき出しており、我々も見習わなければならないと感じた。

古河市にも図書館が2か所あるが、老朽化により、なかなか使い勝手の良い施設とは言い難いのが現実である。教育レベルはそのまちの図書館を見れば分かるものだと私は考えている。新図書館は必要不可欠なものと認識しているので、まちの教育レベル向上のためにも、今回の視察は大いに参考になった。